

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	齊藤 幸子【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成19年度生】 (平成28年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論 文 題 目	太子教育を担った人々 ―漢代の太子官属を中心に―	<p>中国の皇帝政治において、後継者となるにふさわしい能力と人格を兼ね備えた人材を養成することは、王朝の存続にとって緊要な課題であった。本論文は、中国の皇帝支配体制が確立した漢代を対象として、皇帝の後継者である太子がいかに育成されたのかという問題を、太子教育を担った人々に焦点を当てて解明しようとした研究である。</p> <p>序章では、問題設定および先行研究の整理を行い、単なる制度史でなく、「太子教育を担った人々」の具体的な行動に焦点を当てるという本論文の特色を呈示した。</p> <p>第一章から第三章は、「太子教育を担った人々」について考察する第四章以下の前提として、太子教育の制度や内容を検討した諸章である。第一章では、太子認定の条件、立太子儀礼、太子の役割等について論じた。第二章では太子に限定せず皇子一般に対する後宮での幼年教育について概論した。第三章では、立太子後の教育内容として、諸種学芸のほかに礼容（姿かたちや立居振舞）の習得が重視されたことを指摘した。</p> <p>第四章以下が本論文の中心であり、第四章では、太子の教導責任者である太子二傅（太子太傅・太子少傅）への就任者を史書から網羅的に抽出してその任命方針や経歴・事績を検討した。第五章では、太子の警護や家政運営のために任じられる諸種官職の制度的検討及び任職者の事績の分析を行った。また、補論では、諸侯王国で皇子たちの教導を司った傅について論じた。</p> <p>終章では、以上の内容をまとめ、儒学のみを貴ぶ礼教主義ではなく広い視野を培養するような前漢武帝期の太子教育のあり方に、漢代の太子教育の基本的姿勢を見て取る、という著者の見解を明らかにした。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 岸本 美緒	
	教授 三浦 徹	
	教授 古瀬 奈津子	
	教授 伊藤 美重子	
	教授 和田 英信	